

巻頭言

機器分析評価センター長 栗原 靖之

平成 29 年度がまもなく過ぎ去ろうとしています。この一年は、外に目を向ければ東アジアの情勢不安や日本の「ものづくり」への信頼が揺らぐ事件など私たちに不安を与えるようなことが続きました。一方で、平昌オリンピックでは日本人のめざましい活躍が私たちに勇気と希望を与えてくれました。内に目を向ければ、大学は運営費交付金の削減や人員削減による仕事量の増加など閉塞的な状況が続き、明るいニュースは？と疑問を持つような一年でした。このように疲弊する大学の中であって、機器分析評価センターを無事に運営することができたのは多くの方々のご理解とご協力によるものと深くお礼申し上げます。

今年度私たちは、「センター機能の強化」、「支出の削減と収入の増加」と「社会貢献と法令遵守」の 3 つの活動方針で運営し、下に示すことに取り組みました。

1. センター機能の強化

限定的にしか運用されていない機器を撤去してスペースを確保すると共に、学内に保有されている機器をリユースして機能向上し、より多くのユーザーに利用できる環境を整えました。また、機器整備マスタープランを学内に公開して機器導入の考え方を教員に周知し、戦略的な機器導入の手順を定めました。さらに、新たな手法としてリース契約による機器導入を実現しました。これらにより、新規予算が限られる中で機器導入方法を多様で機動的にすることができました。

2. 支出の削減と収入の増加

従来、機器毎に配分していた機器維持管理費をセンターが一元的に管理する体制に変更したことで、予算の有効利用が可能になり削減効果を生み出しました。また、外部からの受託分析が飛躍的に増加し、これらを原資に緊急に必要なあるいは挑戦的な機器をリース契約で導入することができるようになったことは大きな一歩でした。

3. 社会貢献と法令遵守

センター主催の公開講座は依然高い人気を保っており、申し込み開始直後に定員に達するなどそのニーズの大きさを実感しています。さらに大きな社会貢献を目指すことが求められているので、今後も継続して可能な限りその期待に応えていきます。法令遵守では、新たに労働安全衛生連絡会をセンター内に設置し、日々の作業環境を維持すると共に、高圧ガス管理体制の適正化や災害時の緊急避難態勢を整備して、安全にセンターを利用できる環境を整えました。

これら多くの活動を支えているのは、多くの皆様のご理解ご協力であることは言うまでもありませんが、ここで特に知っていただきたいことは、これらを実のある活動にしたのはセンター職員の献身的な協力がほかなりません。チームとしてお互いに切磋琢磨し、補完しあい、前向きにミッションを遂行する姿勢はセンターを預かる立場からみて心強いものでした。

センターはこの強力なチームを支えに、来年度は以下のことに取り組みます。

1. 機器分析評価センターの存在感を高める

技術職員を取り巻く環境は年々厳しくなっています。次の10年の技術職員のあり方を検討し、一層の技能や能力を高め技術職員の地位向上や仕事へのプライドの高揚を目指します。また、CUP-Kを基軸に地域連携を一層深め、技術立県としての神奈川の中核的な役割を果たせるよう努力します。

2. 機器分析評価センターを適正に運用する

これまで以上に労働安全衛生管理を充実して、法令を遵守します。予算運用では十分な機器管理費用を担保しつつ、効率的な予算運用によりさらなる適正化を図ります。

3. 機器分析評価センターのミッションを最大限に履行する

学内機器マネジメント機能を強化するため、学内に設置されている機器の共同利用体制を工学研究院技術部と協力して構築します。これを通し、今まで以上に多くの機器を共同利用できるようにして学内教育研究に貢献します。

閉塞的な環境の中ではステータス・クォオを受け入れない文化を醸成し、新しいことを始めなければ立ちどころ壁を打ち破ることはできません。私たちは小さな組織ですが、今後もチーム一丸となって新しい風を吹き込んでいく意気込みで役割を果たして参ります。どうぞ、今後ともご指導、ご支援くださるよう心よりお願い申し上げます。